



B 8

1|2|6|3



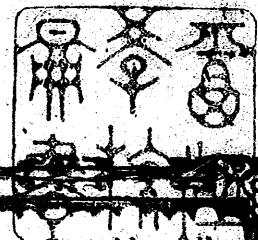
明治二十二年己丑初冬

大令



福澤諭吉譯述

明治四十四年癸卯十二月刊



世界國畫序

世界國畫序



諺ニ云ク災ハ下ヨリ起ルト抑災害下ヨリ起ル
 片ハ幸福モ亦随テ下ヨリ生ス可シ然ハ則チ天
 下ノ禍福ハ其源蓋シ他ニアラス國民一般ノ知
 愚ニ係ルヲ推シテ知ルベキノミ今爰ニ世界國
 畫ノ著アルモ專ラ兒童婦女子ノ輩ヲシテ世界
 ノ形勢ヲ解セシメ其知識ノ端緒ヲ開キ以テ天
 下幸福ノ基ヲ立ントスルノ微意ノミ書成ルニ
 及ヒ合衆國ニヨリヨル州ノ士人タルブランク

民ノ文章ヲ翻譯シテ序文ニ代ルヲ左ノ如シ
世ノ文人筆ヲ下シテ人ノ功業ヲ表スルモノ
常ニ其文ノ趣工ヲ盛ニシ或ハ經濟家ノ知寸
ヲ譽メ或ハ武將ノ勇膽ヲ稱シ或ハ說客ノ明
辯ヲ贊シ字句秀英文章華麗自カラ人ヲシテ
功名青雲ノ趣ヲ想像セシムルモノ歎カラス
然リト雖モ事實天下ノ裨益ヲ謀リ世ノ為ニ
功ヲ成スノ大小如何ヲ論スルハ誰カ學校
教師ノ右ニ出ルモノアラレ何物カ人民教育

ノ重大ナルニ若カシ

我合衆國ノ諸州文明寛大ノ趣旨ニ基キ民間
ニ小學校ノ法ヲ設ケ每户每人其教育ヲ被ラ
サルモノナシ例ヘハ「ウヨルク州」ニ於テハ
闔州ヲ九千區ニ分テ每一區必ス一所ノ學校
ヲ開テ教ヲ授ケリ但五十所ノ大學校及ヒ許
多ノ私塾ハ此數ノ外ナリ

此學校ニ出入スル兒童ノ數五十萬人ニ下ラ
ス此外上級ノ學校ニ於テ教ヲ受ル少年モ九

千乃至一萬人ノ數アリコレニ由テ考レハ人間交際ノ大事ニ関シ或ハ益ヲ為シ或ハ害ヲ為シ其禍福ノ源タル可キモノハ教授先生ノ風俗ト其人品ノ高下ニ在ルヲ知ル可シ豈コレヲ至重ノ任ト云サル可ケンヤ

近來「ウヨルク」ニ於テ人物ヲ選舉スルヲアリテ其時入札ヲ投シタルモノ三十余萬人ナリシ奉行ナドノ蓋シ再後三十年ノ星霜ヲ過キナハ此人負ノ大半ハ物故シテ繼テ其身今

ニ代リ其職ヲ奉スル者ハ他ナシ方今當州内ニ在テ一萬人ノ教師ニ隨從シ初學入門ノ教ヲ受ル兒童ナラン

我國人衆庶一般相為ニスルノ公法ヲ以テ國體ヲ成シ其國ニ益アルヲ甚洪大ナリ然ルニ此國益ヲ為ス所ノ源ハ唯前条ノ一事ノミナラス他ニ又功德ノ大ナルモノアリ其大ナル者トハ何ノヤ慈母ノ教育即是ナリ政府其體裁ヲ寬大ニスト雖モ議政其法ヲ巧ニスト雖

に治國ノ君子經濟ノ為ニ策畧ヲ運ラスモ盡
忠ノ義士報國ノ為ニ身ヲ殉スルモ其國ニ益
スル所ノ實功ヲ論スレハ母ノ子ニ教ルノ功
徳ニ及ハサルヲ速シ

後世若シ我共和政治ノ人民其先人ノ富強ヲ
承ケテ其名其實ニ耻サルモノアラハ此人物
ハ必ス母ノ賢徳ト知識トニ由テ然ル者ナラ
ン先ツ人ノ心ニ慈悲温和ノ情ヲ起シテ其習
慣ヲ成シ更孝ノ道ニ先入セシメテ其方向ヲ

正タシ人類ノ職分ヲ知ラシメ萬物ノ靈タル
貴ヲ辨シ以テ明德ノ門ニ入ラシムルノ道ハ
唯慈母ノ鞠育教養ニ由テ得ヘキナリ

前条ノ如ク慈母ノ教育ハ其子ノ本心ヲ誘導
シ純精無雜神靈微妙ナルモノト云フ可シ此
教ニ亞テ功ヲ奏スルモノハ學校教師ノ教ナ
リ其功德亦小ナラス今此國ニ於テ學校ノ増
加スル毎一年千ヲ以テ計フ此學校ニ在テ教
ヲ授ル者盡ク皆博識ノ士ニシテ腐儒ノ臭ヲ

去リ小説ニ感ハスレテ真理ノ趣ヲ解シ其道
ヲ尊ヒ其教ヲ好ミ當務ノ職ヲ達シテ節義ヲ
守リ以テ風化ノ徳ヲ盛ニセハ其恩ノ生靈ニ
及ノ所實ニ鴻大無窮ナル可シ

明治二年
乙巳八月

福澤諭吉 譯

九例

一此書は世間ニ何レノ翻譯書ノ風ニ異ナレども
其實ハ皆英吉利亞米利加ノ開版ノ地
理書歴史類ヲ求集メその内ヨリ肝要ノ要
ヲ通俗ニ譯シたるものなり私ノ作意ハ毫
交ヘズ

一西洋ニハ年号ナリ其國ノ宗旨ノ改リたる年
を元年ニ定メ明治二年ハ彼千八百六十九年
ニ當ル

九例

五

一物の数ハ一十百千万十万百万千万一億十億
百億と十倍つゝ此位より次第に計へ上るを

一英の一里ハ千七百六十ヤリと云ふ
るは日本ハ三尺少一余なり故に其一里ハ
日本ハ十四丁四十間余に當る英の地理の里
法ハ少く長く其一里ハ二千二十五ヤリと
當る即ち南北緯度の一度を六十に分ち其
一分の長さなり

一地名人名等は西洋の横文字を讀み畧その音
に近き縦文字を當るものとせしハ古來翻譯者
れ思々々色々の文字を用ひ同ト土地とて
二も三も其名の似たり又或ハ唐人の翻
譯書を見て其譯字を真似たりと有りあれ
ハ唐ハ文字の唐音を以て西洋ハ字音に當た
る也ハ唐音を明に學者達ハ分るべけれ
ども我々共々少くも分る故に此書中ハ
ハ勉て日本人に分り易き文字を用ふ中ハ

せり實はいろは計り用ても濟むるも答かれ
とも本字を記して股へ假名を附れ、記憶を
ふ便利なり譬へは南亜米利加はべり也
うゝのふ處へ平柳と記し、ろもは勘平の平れ
字と揚柳れ柳の字なりと憶ふ記し、おふへ
易く固より論よりその遠り、辨輕乃辨の字
は辨慶の辨の字なり論頗の論の字ハ論語の
論れ字なり大抵みれ趣向より譯字を下へ
れども多くは譯書中へ普通なる文字ハ無理

なりとも其より用て傍ふ假名を附れば讀
者其本字を當ふやうく假名の方を記憶も
なり

一 近年までは日本人も英文を讀み得る和蘭の
書のもを翻譯せしゆへ地名も蘭人の唱と
英人の唱と同一とせられし由り譯字の相異
ありありのあり譬へは昔日蘭書の翻譯文中は
寓々所徳禮幾と記したるものを今ハ填地利
とつひ古の獨逸を今ハ日耳曼とつひ如き

一 事實に於て變るゝものなり唯近來ハ英書流
 行ゆハ其の唱は從ふのみ
 一 地名人名海河等の名を其文字の上下へ
 の如き印を附て區別せり
 一 書中はひふへほの假名文字は圖も濁点を附
 けずはびふへほと記したる可きものなり
 ふへほも何れ又ばびふへほともなり
 のべへづふまゝりふへほの音なり

目録

一の巻

發端

亞細亞洲

同頭書圖入

二の巻

阿非利加洲

同頭書圖入

三の巻

歐羅巴洲

同頭書圖入

四の巻

北亞米利加洲

同頭書圖入

五の巻

南亞米利加洲

同頭書圖入

大洋洲

同頭書圖入

六の巻

地理學の總論

天文の地學

自然の地學

人間の地學

目錄終

世界人民の事
 世界の廣さハ英吉
 利の一里四方を一
 坪に九二億の坪に
 數りてこれを四に
 分け三分ハ海の一
 て一分ハ陸の故
 人の住む陸の廣
 さハ五千萬坪あり
 但し英吉利の一里

世界國盡

發端

世界一國

を、おかしき

そ、おかしき

世界國盡

八日本の十四町四
 十三間ふ當る
 世界の中人の數ハ
 九十億お近一國々
 の土風お由て面色
 も同トからを知恩
 と一様ある其區
 別を五種お分ち世
 界中お多少の割合
 左の如し

亞細亞 非洲 利加 羅巴 南亞 亞米
 利加 大洋洲 南亞 利加 羅巴
 亞米 利加 羅巴 南亞 亞米
 利加 羅巴 南亞 亞米

歐羅巴 亞細亞 亞米利加 非洲
 白人 其數四億二千
 萬人 亞細亞 亞米利加 非洲
 少く 黃人 其數
 四億六千萬人
 亞米利加 亞細亞 非洲
 白人 其數一千万人
 亞米利加 亞細亞 非洲
 白人 其數一千万人

名稱なるを北の風
 俗人情は変な
 いかんも人様
 我知るる人
 利加 羅巴 南亞 亞米

色黒一其數七千萬
大洋洲に住へる島
人ハ茶色あり其數
四千萬人
亞細亞洲の事
細亞の土地の廣
サハ千五百五十
萬坪人の數六億人
五大洲の中にて

當りて得んことを
水と云ふ一極
音多一極の事
始より筆を大
略に志すに所



廣き亞細亞洲の内
そ人の種類も色々
ありきども蒙古人
の種として其種族最
多一或ハこれを

亞細亞洲

圓に地球を以て
之西に先し西あり
てす水は海なる
は海環に環れ

正細亞人樹といふ
 氣候も北方より遠く
 屋の方ハ甚ど寒く
 天竺の南ハ至るまで
 赤道近く甚だ熱く
 禽獸草木もこゝに
 準りて異なる
 ○支那の廣さハ五
 百二十萬坪人の數
 四億都の名を北京

倭地より大平海
 の西ハオ亜細亞海
 東ハ我日本始
 し西のハ天竺
 南の國ハ印度



といふ國中の男子
 ハ皆リ坊主あり
 始て見る人ハ甚
 とうしく思はる

支那ハ亞細亞天
 國人或はありて天
 竺より印度
 魯西亞東のハ大
 平海流戸を居る

支那の産物へ銷布
 木綿瀨戸物其外衆
 牙細工等小間物多
 珠茶ハこの國
 の銘産ハて毎年外
 國へ積出まこと凡
 一億斤小近
 歐羅巴亞米利加
 小ハ茶園ホーその
 國々の人の用茶

日本國九洲紀前
 長崎より支那の東
 岸の上海へ海路僅
 三百里蒸氣船ハ旅
 多水十。水喉を費

香港の港



ハ支那と日村
 積出と品方

一、往來歸る
 王南より香港
 英吉利領一孤島
 高賣無ふ花

支那ハ舊き國にて
往昔ハ大造ナリ事
を成したるものも
何北京と南の
方杭州府と通船
の距離を長さ三百
里餘あり北の方か
ハ萬里の長城とて
長き土堤なり其高
さ一丈五尺より三

東洋一に港な
るを以て支那の
活は古陶器の代
より年以経るに
今歳仁義不常に

大谷小勝山を越
六百里の長さ
及び當時ハ固
に修覆もよく崩
次弟たれども珍
き古跡として西
人ハ折々見物ま
う此長城ハ二千
年前秦の始皇帝
胡を防ぐたれ小築

人情厚く風
を以て存高
中より文明の
後進風俗第二
表し徳政の

きーものあり
今より二千三百年
前支那の孔子とい
へる人にして名高き
學者にて門人も多
く著作の書も段々
後の世に傳へ支那
ハ勿論日本にても
この人のことを聖
人として尊敬する

初めみよと我も
外より人々と
高枕晏晏
使わさすを
抑へて惡政の天罰



支那の政事の立方

通るに
天保十二年
と和が起し
和を成し
償洋銀一百万五

ハ西洋の語はども
不ちくといへりも
のふて唯上り立つ
人の思ふ通ふ事を
ふも風なりゆへ國
中の人皆俗にふ
奉公人の根性にお
て帳面前さへ濟り
一寸のダもとい
ふ氣にて眞實に國

交の港なりと并
なを思ふも無智
民理はあきなり兵
端は安し井く福を
てて我はしる今

の爲を思ふ者おく
遂に外國の侮を受
るゝふにあたる
あり既に天保年中
英吉利に打負へ
きも償金を拂ひ
上り香港の嶋を英
吉利に與へ廣東厦
門福州寧波上海五
所の港を無理に開

のようして成行
のようには
豆細豆れ南の面
のようには
のようには
のようには

うせらも其後より始
終外國人ふふとつ

けら

○前印度と後印度

と少鷹寺洲といふ

河を以て界とせし

此河の畔ふ阿羅波

婆土といふ釈迦

來の靈地といふ今

ても毎年諸方より

る方、後印度より

る前印度より

高麗國と暹羅

安南居留藩王其

は西貢國政府を

鷹寺洲の河



参詣の人二十萬人
の餘りといふ

と一玉を水と人

氣はくくをた

西洋人の侮我受

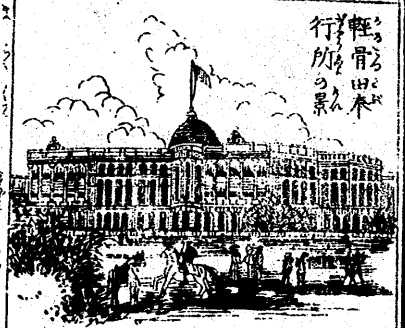
水も汁の水を

羅と居留満のあ

後印度のこと西
洋人ハハんどまた
んとハハ大抵残ら
を英吉利領かて唯
其北の方ハ獨立國
と唱へ英の支配を
受ざりも二三國
の方ハ英の支配
下あり

下よりみろ長
北満首花、源磨
多良嶋と對東
西僅う二千餘里間
北海、北満首花の

輕便車
行所



滿落花の南の輪ハ
新賀城といふ小島
の英吉利領の港
ハ諸國の船の立

北の海、北満首花の
多良嶋と對東
西僅う二千餘里間
北海、北満首花の

寄る所あり
後印度の南の端に
と西論といふ島に
と同一く英領にて
に港あり此島ハ
釋迦誕生之地あり
といふ



の東岸ニ拜都
輕骨田英吉利領の
惣奉行印度地方を
支配し軍艦商船
數多し並細五法玉英

印度の産物ハ材木
米麥砂糖蜀黍麻藍
烟草胡椒阿片黄金
鉄銅珠玉の類且こ
の地ハ春夏秋冬の
差別なき暖國にて
色々珍らしい菓實
多し獸類ハ獅子
犀象虎又恐ろしき
大蛇蟒なども山に

吉利ハ威勢あり也
ふたなりといふ前印度
度ハ領地とも
印度ハ西の國とぞ
河英賀仁波丹玉苗

居る

獅子



○邊留社ハ舊國
もと元來人氣粗
く政事向暴虐ハ

在漢丹之端
の尾留知次丹楯立
國の石河
俗相夷秋の西
進邊留社名

て下々の取扱
からざる
の力次第ハ衰
時又至ハ文武
も不列立
十三年ハ
二十八年ハ
西亞ハ戦ハ
敗地ハ大
地を失ヘテ近來ハ

世ハ所謂古國
紀元以前六百年
白洲五
武
武
武

英國と交して英の
士官を雇ひ武備を
整るよりあり



一 次々として得奉
る代福之物
可蒙古に改
北千五百年
政府に改

○ 荒火屋ハ大國ハ
もどろ砂漠して邊
をかく廣き砂原
て且氣候ハ熱
雨ハ少く住ふ
からざる地あり
されども平地ハ
草木よく生長を産
物ハ藥種葉實
の類多し獸類ハ

王國紀元世
多角砂入海
西の砂漠廣
荒火屋國南

馬路駄跡のあらび
 やの馬とてハ既ハ
 日本ハも渡り世界
 中の名馬あり此國
 ハ風倍ハく老て
 盜賊多きハ國ハ
 人々廣き砂漠を越
 て旅行するハ大
 勞路點々來て武器
 を携へて通行する

「蒙古」
 蒙古ハ北に
 土留古ニ堺一ハ西
 北に亞細亞大陸の陸
 彼岸望めハ河洲利
 加海中ハ公原ハ

とあり



土留古の領分ハ

西紅海子の南北地
 續ハ東洲の北境
 名ハ高た石里
 里ハ鐵道ハ北
 北ハ地中海無細亞

歐羅巴と亞細亞との二大洲は跨る地中海と黒海との間の瀬戸を以て界とせし故に亞細亞の方には飛地を亞細亞土留古といひ歐羅巴の方には本領を歐羅巴土留古といふなり當時

河班利加歐羅巴三
玉塚北中ノ海ノ
我ノ小亞細亞
屋兩仁屋羽禮次
院惣名要細五土留

ハ土留古の政事不取締かく飛地の領分ハ度々變動あり
○魯西亞は歐羅巴と亞細亞と地續いて兩方小領分なり
二大洲の界ハ宇良留山あり志達里屋ハ馴鹿といふ所

古々土留古ノ
順北ノ
志達里屋ハ亞細亞
れ北ノ毛ノ
宇良留北林鹿

つて馬の代小用
也又一種の犬
こも牛馬の如く
車を引くといふ

馴鹿
橋を
引く
氷を
渡す



東の極を要利か
近くむふ瀬
戸の水をみえ支
那よりひく北を
過る北極海東を

志邊里屋ハ土地廣
けをとり人少く三
百萬ハ過ぎ土人
ハ獵を渡世とせし
又宇良留山の遠ハ
ハ金銀の山多く
西の國ハ罪
人を移して夥しく
金を掘出るといふ
志邊里屋の産物ハ

一、五百餘里南北
八百里西亞の傾
地の廣大ハ世界
比類するものあり
るに奉行所ハ西

獸皮あり賣買城の
 交易あり皮を以て
 支那の互物瀬戸物
 お易ろといふ
 嘉無薩加の港を
 いふこの題より東
 の方魯西亞領の亞
 米利加へ往來の海
 上甚と近し

玉物より戸保留次
 東國筋ふ伊留次
 在南境の喜河久田
 賣買城より隣りて
 支那と魯西亞の産

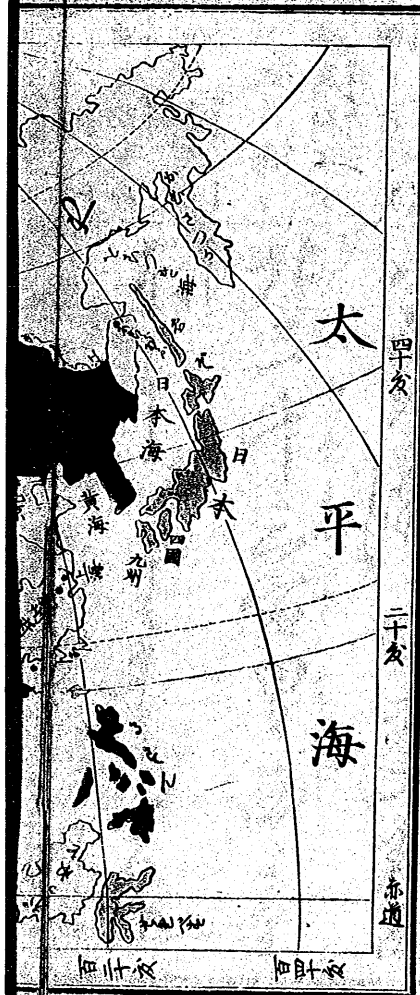
嘉無薩加の島



物互易交易
 場末廻り客黒船
 江氏建仁集
 府我日本に極夷地
 より煙をくちし隣

魯西^{ろせい}の政府ハ昔^{むかし}地面^{ぢめん}を廣くも^{ひろく}と^と心掛^{こころがけ}け近^き年^{とし}ハ又^{また}滿州^{まんしゅう}の地^ちを取^とて專^{せん}ら黑龍江^{くわくりやう}の邊^へ小^こ舟^{ふね}を入^いれも軍艦^{ぐんかん}も始終^{しじう}碇泊^{ていぱく}一河^{いつが}ハ小^こ形の燕氣船^{えんきせん}を浮^うべて運送^{うんそう}の便利^{べんり}を達^たせし

國^{くに}東^{ひがし}の^はと^と多^{おほ}る實^{じつ}海^{うみ}と突^つた^たる^は加^か無^む薩^{さつ}加^か亞^あ細^{しよ}亞^あれ^れ東^{ひがし}け^けと^となる



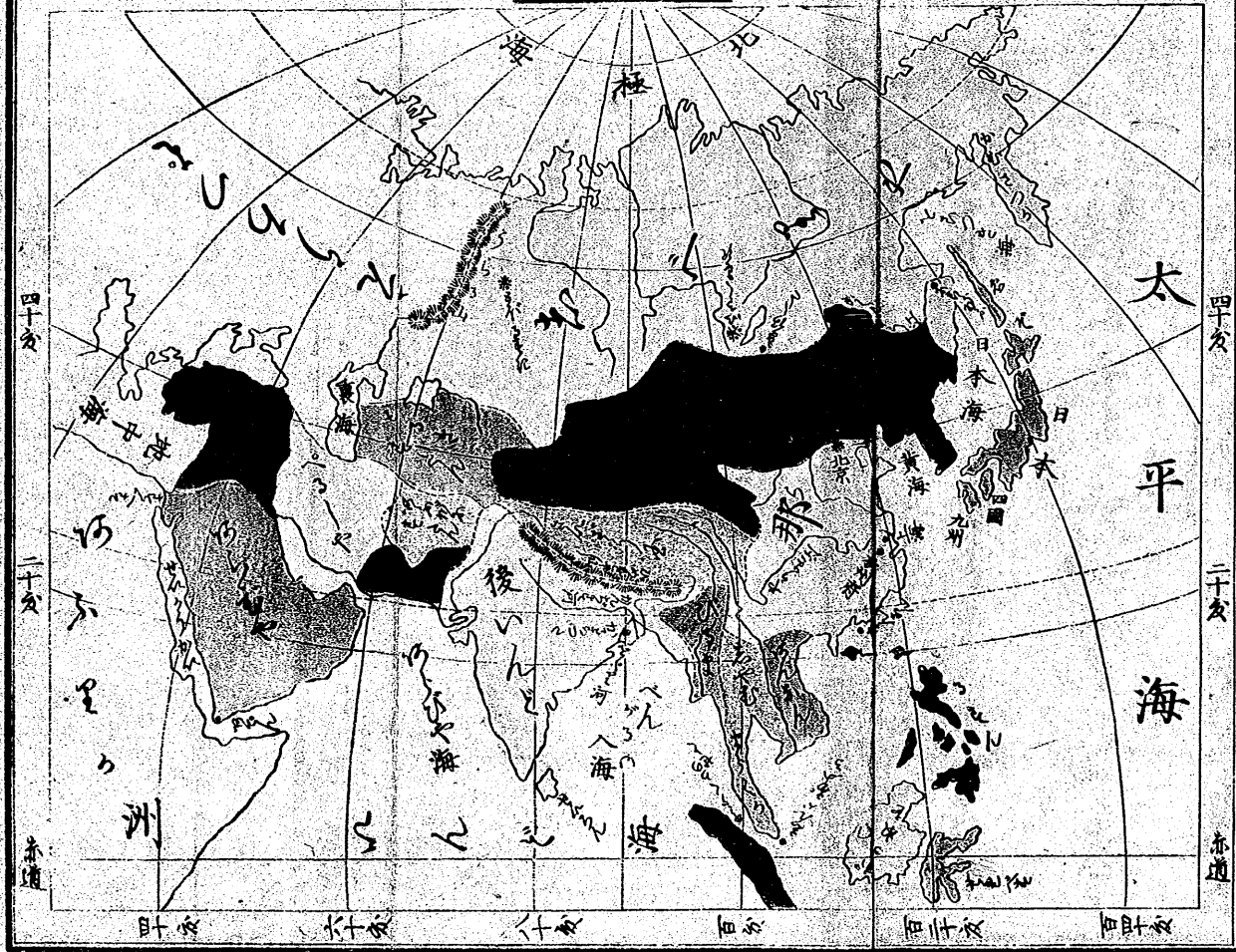
甲辰

二十

赤道

三十八

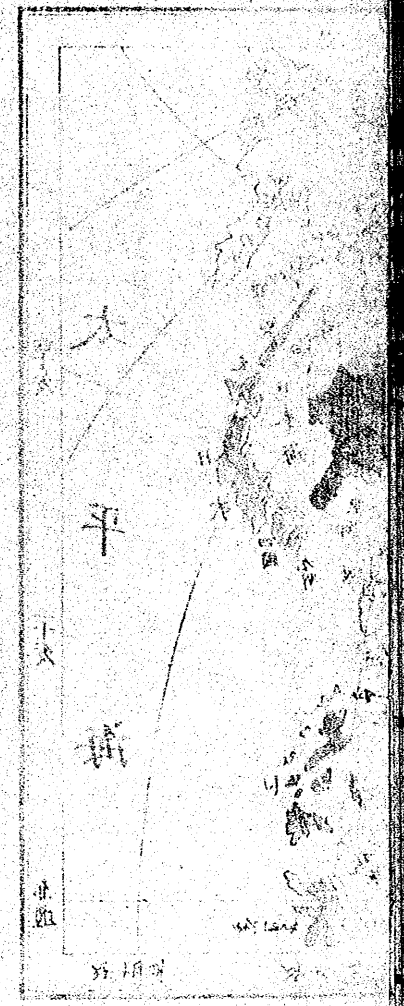
洲亞細亞



阿非利加の事
 阿非利加洲の廣さ
 八十二百九十四萬
 坪人の數六千一百
 萬北の方小ハ歐羅
 巴人の種もあり其
 餘ハ大抵黒奴にて
 風俗甚だ陋一國々
 小王といひ帝と唱
 へて支配の君も有

世界圖説卷二

阿非利加洲
 阿非利加洲乃廣大
 ハ大洲以東ニ為南
 北二千三百里西ヨリ
 東ニ至ル



きども強き者の力
づくふて弱き者を
苦しむる風あれを
争ひ絶間かとい



阿非利加ハ四方皆

其路を二千里
四方は海岸湾曲を
入海稀き河少
なり内地の様は
人船の往来は便

海まで唯亜細亞洲
へ続く處ハ未洲の
地峽として百里を
その地は續けり
この地は續けりハ
車の路なりて一日
小往來をべし又四
五年前より佛蘭西
人の目論見にて此
地を割て通船

あり海岸は通
る西洋人の往來
は甚だ便なり
地を度る人少
ありて人少あり

の路を開くんとし
 て大抵却向もつき
 小舟の通ハ既に出
 来よりこの掘割
 跡々成就一あバ歐
 羅巴より東洋の印
 度支那等へ航海を
 る小喜望峰を廻ら
 せし地中海とて
 直小西紅海へいで

又其志を以て
 藝を北と東の數
 首國に於てきし
 名一様し無智澤
 此の二世界より國

余程の道路あるべ
 ○衛士府都ハ山少
 く平地あり内留と
 いふ大河なりて國
 の中央を流るこの
 濕み田畑も登て
 且折々河の水溢る
 其跡ハ却て作物よ
 くや来る中此國

賦計る一無窮無海
 うるひある未海の西
 能衛士府都ハ河水
 利加一の二國あり古
 る土留古より交

の人大水を以て
豊年の瑞として悦ぶ



市一土地ありて今
いはるれ獨立國と
東亞あふる市
をなす内留河この
東に海接ハ海軍府

この邊ハ不思議
る地おて四時とも
雨降らば草木を養
ふもめハ夜の露の
を吹候ハ熱く砂塵
を吹立人の住居小
ハ快からば産物ハ
米麥綿烟草の類ふ
衛士府都ハ古き國

都國の首府あり河
の波岸ありて是は
市一土地ありて今
いはるれ獨立國と
東亞あふる市
をなす内留河この
東に海接ハ海軍府

へて名所舊跡沢山
 あり宮寺ありの跡
 も大造りありの多
 一比羅三井天の敷
 も六七寸あり其最
 を大あるものハ本
 文ありいへる通
 高は四百八十尺世
 の言傳ふ三千年以
 前國王の墓碑ハ建

支那の萬里の長城
 と静候を起る古
 跡とて唐人の跡
 あり内留の流あり
 あり人ありとて

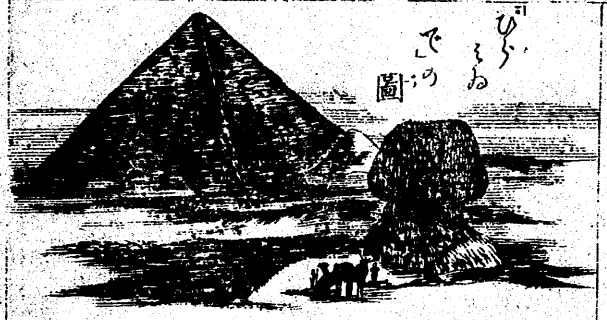


図
 大ピラミッド

信堅國より南河
 流志江原西の海
 瀬戸の南東に楚
 森國印度の海に
 あり赤道越え南

○信野ハ衛士府都
 の支配あり阿弥志
 仁屋ハ獨立國あり
 此邊の河ハひも
 大さきといふ獸
 大さき象の始



「三義系」と「長山丘」
 「河洲利加」乃「東國」物
 「茂山丘」の港
 「麻田糟」輕「印度」
 海は西方より来る

○麻田糟輕ハ文化
 年中より歐羅巴の
 諸國と條約を結び
 俄ハ風俗改メ文武
 文政十一年其國王
 良多馬ある者王妃
 小毒害せらるるこ
 國中大乱の世
 あり一時ハ外國

多の島のよハ人民四
 百七十萬西洋人
 とは来し者多
 第一「無名」國
 以「昇化」近

人をも残らむ追出
 したる迎來ハ又々
 開國とあり外國の
 附合も始り一おも
 ども以前は較れそ
 國の威光大に衰へ
 全く鎖國の
 騷動りしゆへあ
 王國の都を棚奈龍
 といふなり繁花

麻田槽輕乃西南
 阿班利加海の陸の
 陸西に廻るは花
 望海に望むを
 西海の風颺る

ある地おもはるむ

麻田槽輕乃都棚奈龍の景



○春望峯の地ハ

横影を記章連ぬ
 英吉利印度地
 才中なる長海
 海の河多羅海越
 ときやみは花

和蘭の領分あり
 一六十年以前より
 英吉利の支配と
 あり故に當時も
 和蘭人の種多し事
 望峰の港の名をけ
 ゐぶたをんといふ
 商賣繁昌し産物も
 多し南の方幾天戸
 地屋の遠に住居を

松竹の櫛目なり
 まんねん花は望む峰
 とる舟を以情紙波
 たりと名以下一なり
 又ふたりと人喜望峰

阿非利加人ハ實
 小愚小しと人間
 内の下等ありといふ



乃西の「費天戸地」
 屋新部橋上下銀
 名は「理部利金園」又
 乃北の二箇國を志
 尚良禮思「瀬北賀」

○銀名國ハ二カ分
 一南の方を下銀名
 といひ北の方を上
 銀名といふ其界ハ
 大川
 あり上銀名ハ
 英吉利和蘭等
 の領分なりて土地
 の産物砂金又ハ椰
 子の實の油などを

宮られ阿班利加
 西國筋ハ國々
 極ハ東の國々異
 中ハ一區の理
 部利屋ハ阿班利加

積出モ下銀名
 ハ葡萄牙の領分
 此邊ハ獅子多
 く折々人を害を恐
 るべきことあり



乃國福ハ一種無類
 共和政人民ん
 議事院
 事ハ議ハ北亞米
 利ハ流行の自由

○古来阿非利加ハ
 一き風俗流行
 一々人を賣買する
 ことありこれを
 さいふといふも
 いふとハ生涯買切
 の奉公人といふ
 とあり亞米利加
 どハ夥しくあつ
 人を買込て田畑の

北風は福なり冬暗
 きふ来一一點の星
 乃懼くやなま北
 ありま一西一地
 中海乃山岸へおる

働不用て牛馬同様
 不取扱ふ風習あり
 一々心ある人ハ
 心を憐れ故んと
 する者も亦多し即ち
 理部利屋國ハ亞米
 利加にて志ある人
 の申合ふて建たる
 國あり近來をこも
 たり人の賣買

る國北極を北河
 北利加乃馬留馬里
 伊より北端ある後
 祿子ある何北利加
 一の帝國を

大不減トたり
 ○茂標子の港丹路
 留ハ治部良留多番
 の瀬戸小臨と西班
 牙國と對岸あり

景の留路丹



新ノミ地味紀
 天ノ恵ハ濃ク
 吾ハ故車ハ以
 一ノ農瓜勤
 若ク耶一東

○阿留世里屋ハ氣
 侯總ハ一で五穀
 實ハ登ルこと茂
 子ハ劣ラズ其都ハ
 海岸ヨリ小高キ山
 の麓ハ間て風景よ
 一四五十年前ハ此
 還ハ海賊多く諸國
 の船ヲ悩セリ我文
 化年中亞米利加

佛榮西國
 人ハ二百五十年
 以去ハ四十
 片ハ不羈獨立

軍艦これが大々か
阿留世里屋を攻て
六萬どららこの價
を取ることなり



のふ人絶えし佛
よきをまゝに總奉
行ふにまゝに
威を極く兵士軍
艦数ねはく二百餘

○戸仁須戸里堀等
の諸國の内にて戸
仁須の人はよく農
業を勤め且此國ハ
五穀綿畑草等の
外銀銅鉛水銀の
産物に富み里堀の
人は事を常食せ
て都て荒火屋邊
り阿非利加の海岸

第の人民を佛業
西帝の極風成
し魔の東の東
う水と東の東
都の間をなす

ハ東の多き東あり
 ○阿非利加の内地
 ハ西洋人の詮索も
 いさゞ委しく分
 らぬ越尾比屋あ
 の人ハ最も教ふ
 しく人情甚だ粗
 おやむくといふ
 の黒奴ハ人を殺
 肉を喰ふ

王、戸仁次、戸里
 堀馬留加國、其
 少、多山國大略
 同、夷狄人、表、
 去、留、古、小、陸、了、名、あ



砂漠の内、か、稀、か
 ハ山、小、草、の、茂、た

わ、実、多、に、支、配、を
 多、阿、非、利、加、の、内、地
 の、様、ハ、知、る、も、ろ、ん、大
 染、う、に、る、國、境、南、北
 越、尾、比、屋、を

るおを警へ大滝
 小嶋のるる如く往
 東の人ハこの草を
 駱駝の飼料おる
 あり但し人の食物
 ハ數箇月の用意お
 かるるうらむ又砂
 漠ハ雨降らむ
 て水お不自由あり
 十日路も行て始て

「宗明水」
 佐東の系と云ふ
 冬、界中、大砂
 漠、東西、三百里、
 南北、四百、餘、里、
 樹

湧泉お出逢ふ位
 ことあるバ飲水の
 貯りて叶ふね
 ことあり頃を我文
 化二年、當り阿非
 利加の人二十人駱
 駝千八百疋を引て
 砂漠を渡り小折
 しも水のなる處お
 行逢せむで残ら

「宗明水」
 佐東の系と云ふ
 冬、界中、大砂
 漠、東西、三百里、
 南北、四百、餘、里、
 樹

〇 麻寺ハ小島也
 とも山水の風景甚
 だし産物ハ葡萄
 酒あり氣候ハ春夏
 秋冬大抵同様ハ
 病人あとの養生所
 小宜し加奈利屋ハ
 西班牙の領分あり

渡りし砂漠
 出た所ハ麻寺
 支配する葡萄
 葡萄の葉は



麻寺島之景

その模様ハ大抵
 寺小同ト

名高き地ハ
 土地の良同
 麻寺は
 人麻寺ハ
 今更屋ハ

○新都邊禮奈ハ英
 吉利の領分あり千
 八百十五年即ち我
 文化十二年の頃佛
 蘭西帝弟一世が不
 れをん和阿戸留樓
 といふ處小をわて
 英吉利の將軍ある
 てんとんと戦ふて
 敗北し此島が流さ

の里より水場へ一
 里あり数四町ありぬ
 春の邑小島の名あり
 の名をいふなり一
 河あり西の廻り輪留

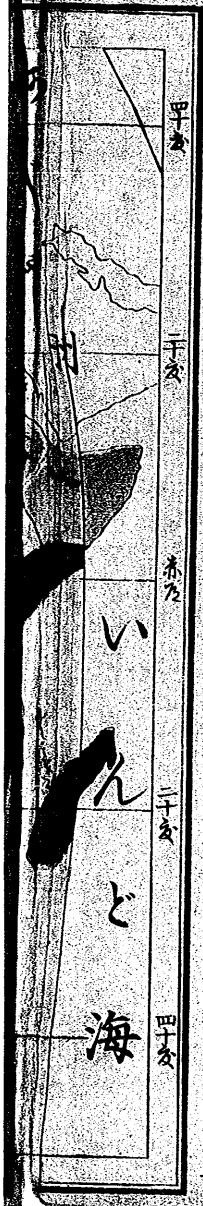
きて生涯を終る
 ことあり嶋の評判
 世に知らるなり



田嶋「移る田以南」
 淋「礼奈新都邊」
 奈嶋「礼奈所」
 ありて「佛奈西」
 皇帝「奈保禮恩和」

一、我が国をんを此島
 小流され千八百二
 十一年五月五日
 命を終る死後
 罪人の取扱あり
 千八百四十年佛
 蘭西人の心願小
 大造ある禮式小
 本國の都巴理斯
 へ改革す

何戸留樓の戦ふ運
 弁所へおきて流
 罪人なり―由來
 嶋の名譽をナシ
 也



阿非利加利洲

